

経営発達支援計画の概要

実施者名	阿哲商工会
実施期間	平成27年4月1日～平成32年3月31日
目標	<p>小規模事業者の事業計画作成を通じて、変化する経営環境への対応と企業の持続的発展を支援し、経営力向上や海外展開を含む販路拡大、事業規模の拡大による雇用の創出を図る。また、創業支援・事業承継支援を行い、新見市の未来を背負う経営者を育成していくことにより、地域を支える企業の増加、I・Uターン起業による新たな産業の創造を図る。</p> <p>さらに、中期的な取り組みとして6次産業化支援を行い、「アグリカルチャーからアグリビジネスへ」を目指し、地域の特色を活かした新たな事業創出と地域資源を活用した商品開発と販路開拓の支援などを行う。</p>
事業内容	<p><u>I. 経営発達支援事業の内容</u></p> <p>1. 地域の経済動向調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の経済動向に関する分析結果を取り纏めた資料を作成し、管内小規模事業者に提供するとともに、事業計画策定時に活用。 <p>2. 経営状況の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回・窓口相談をはじめ、事業者とのあらゆる関わりを通じて経営資源や特徴を掴み、「事業価値を高める経営レポート」作成を行う。 <p>3. 事業計画の策定支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業計画策定の必要性の周知と、経営の持続的発展を実現し新たな需要の獲得に必要な事業の再構築を図るための事業計画策定支援。 創業を図る企業や、創業間もない（5年未満）企業の育成と基盤強化を図るため、他の支援機関等と連携して創業塾を開催。 <p>4. 事業計画策定後の実施支援</p> <ul style="list-style-type: none"> よろず支援拠点、県産業振興財団、県連合会をはじめとした地域の中小企業支援機関及び金融機関等と連携しながら、伴走型の支援・助言を行う。 小規模事業者経営発達支援融資事業を活用して金融面での支援を図る。 創業後も販路開拓支援や記帳指導の強化などにより、伴走型の支援を実施。 地域資源を活用した新たな産業の創出を図るため、6次産業化に取り組む農業者の相談・支援を行う。 <p>5. 需要動向調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者の取り扱う商品・役務の需要動向について取り纏めた資料を作成し提供。 地域資源を活用した商品や役務に関する需要動向情報を収集・分析し、展示会・商談会への出展者に情報提供して販路開拓支援を行う。 <p>6. 新たな需要の開拓に寄与する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 6次産業化に取り組む事業者の販路開拓・商品認知度向上を支援する。 各機関が実施する海外展開を含む展示・商談会・セミナーへの参加・出展支援及びダイレクトマーケティングに関するセミナーの実施。 小規模事業者持続化補助金の積極的な活用推進と、販路開拓の取り組みを支援。 <p><u>II. 地域経済の活性化に資する取り組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 集客による地域活性化を目的とするイベントの開催。 地域住民の生活を支援するコミュニティビジネスの推進。 A級食材のブランド化や地域資源を活用した特産品開発支援。
連絡先	阿哲商工会 岡山県新見市神郷下神代 4898 番地 9 TEL 0867-92-6103 http://www.atetsu.net/

【事業の成果・評価・見直しの結果等（平成27年度実績）】

I. 経営発達支援事業の内容

1. 地域の経済動向調査

達成度	達成・未達成の要因
分析資料を岡山経済研究所に委託をして作成。2月25日に完成し、事業者が出席する会議会議で配布。	・経済動向調査の分析は、商工会単独では弱いため外部機関の活用を図った。事業費の関係で着手が遅くなった。
	主な今後の予定・改善点
	小規模事業者で活用しやすい資料を作成し、相談時や事業計画策定時に活用していく。
有識者会議における今後の見直し等に関する意見	
<p>今後は、限られた人的パワーの中でどこまでを内部でやり、どこを外部にお願いするかについてよく検討して対応していくことが必要。</p> <p>新見商工会議所や高梁川流域の関係で倉敷市が独自に調査したデータもある。このようなものも参考していくことでより具体的な提案に繋がる。</p>	

2. 経営状況の分析

達成度	達成・未達成の要因												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>目標</th> <th>成果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小規模支援会計momo利用者</td> <td>82</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>経営状況登録事業者</td> <td>200</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td>経営レポート作成件数</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標	目標	成果	小規模支援会計momo利用者	82	79	経営状況登録事業者	200	199	経営レポート作成件数	10	4	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者には個人事業者が多く、その大部分について決算申告指導を行っており、少なくともそのタイミングでは事業所の経営状況の把握が出来ている。 ・会計システムの利用も進んでいて、経営分析が容易に行える環境にある。 ・小規模事業者の補助事業活用件数が想定以上となり、その支援への対応に追われ「経営レポート」作成件数が届かなかった。
	成果指標	目標	成果										
	小規模支援会計momo利用者	82	79										
	経営状況登録事業者	200	199										
	経営レポート作成件数	10	4										
主な今後の予定・改善点													
支援スケジュールを検討し、円滑な支援ができるように工夫する。													
有識者会議における今後の見直し等に関する意見													
<p>このポイントは、経営支援の入り口を円滑にするということなので、課題のキャッチの仕方をどのように行っていくかが今後のポイントになると思われる。やり方について試行錯誤を繰り返しながらレベルアップしていただきたい。</p> <p>また、複数の事業者に対する効率的な支援スケジュールの組立については、だいたいこの会社だったらどれくらいの時間が必要かということが、数多くの支援をやっていくうちに経験則でわかるようになる。そういうことが積み重なっていくうちに、効率的に予定が組めるようになる。その辺りを指導員の方がわかってくると、負荷のかかり方も予測できるようになるので、やり方もうまくなる。</p>													

3. 事業計画の策定支援

達成度			達成・未達成の要因
成果指標	目標	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・持続化補助金等の活用提案がうまくいき、想定した以上の取り組みがあった。 ・連携機関との情報共有もあり、創業者の支援に結びついている。 ・小規模事業者の補助事業活用件数が想定以上となり、その支援への対応に追われ「経営レポート」作成件数が届かなかった。(再掲)
セミナー・説明会開催回数	2	2	
事業計画策定事業者数	20	37	
うち経営レポート作成件数	10	4	
成果指標	目標	成果	主な今後の予定・改善点
創業塾開催回数	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・県連広域サポートセンターと連携を図り、専門家派遣や個別相談会の開催により対応を図る
創業セミナーの開催	1	1	
創業支援者数	3	5	
第2創業（経営革新）支援者数	3	5	
有識者会議における今後の見直し等に関する意見			
<p>事業計画の必要性を事業者伝えていって、理解を得て支援に繋げていくこと。必要だということもわかっているにもかかわらず理由で出来ていないという事業者も多くあると思うので、そこに対していかにサポートしていくかという視点で取り組んでいただきたい。</p>			

4. 事業計画策定後の実施支援

達成度			達成・未達成の要因
成果指標	目標	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業活用事業者に対する実行支援を定期的に行っている成果が出ている。
周知によるフォローアップ件数	50	42	
			主な今後の予定・改善点
			広報誌などにより経営発達支援融資制度の周知を図っていく
有識者会議における今後の見直し等に関する意見			
<p>良いフォロー、悪いフォローというのがあると思う。何がどうだったからそうなったのかという要因を分析してフォローの改善に繋げていくと、フォローの質の向上につながる。そのような視点で情報を共有しながらノウハウを蓄積していく事で、良いフォローのスキームが出せそうな気がする。2年目以降活用を図っていただきたい。</p> <p>商工会に来て欲しいと思っているところを見逃しているケースがあるかもしれないので、そこを見逃さないよう支援を行っていただきたい。</p>			

5. 需要動向調査

達成度		達成・未達成の要因
地域資源を活用した商品等を展開している事業者25社をピックアップしているが、十分な情報提供に至っていない		<ul style="list-style-type: none"> ・継続支援を行っている企業を中心であった為、従来のやり方により対応しているケースが多かった。
		<p style="text-align: center;">主な今後の予定・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日経 POPEYES と指導員に配布されているタブレットの活用により、情報の収集提供を迅速に行う。 ・必要に応じて専門家の協力を得て情報の収集分析を行い、提供していく。
有識者会議における今後の見直し等に関する意見		
<p>指導員から「展示会への出店後に社長とディスカッションする中で、新たな情報や糸口を見つけることが出来き、そのことについてお互いに調査を行ったり考えていくことで、具体的な打ち手につながっているのかもしれない。また、取引の信用調査を県連に依頼することも多いが、その中で相手企業の取引先情報などもわかる。そのことでどういった企業が取引先としてあって、自社にとっても取引先になる可能性があるかどうかなど参考となる面もある。」という意見が出た。支援先企業の中にこういった成長事例が出ているということは、担当指導員は気づかずに支援の流れの中で普通に出来ているということなので、なぜ出来ているかという点を掘り下げて行くと他者に参考になる部分が見つかると思われる。このようなことを職員間で共有しながら進めていって頂きたい。</p>		

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業

達成度			達成・未達成の要因									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>目標</th> <th>成果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>販路拡大セミナーの実施</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>展示会出展支援者数</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>			成果指標	目標	成果	販路拡大セミナーの実施	1	1	展示会出展支援者数	18	18	<ul style="list-style-type: none"> ・県、産業振興財団、連合会が実施する展示会・商談会、物産展等の情報提供と参加支援を行った。 ・持続化補助金の活用により、商品・サービスの認知度向上に貢献した。
成果指標	目標	成果										
販路拡大セミナーの実施	1	1										
展示会出展支援者数	18	18										
			<p style="text-align: center;">主な今後の予定・改善点</p> 引き続き取り組む									
有識者会議における今後の見直し等に関する意見												
<p>阿哲商工会としての中心的な取組として取り上げられていることで、意気込みを感じる。農産品や地域資源を活用したところが多いということで、熱心に取り組まれているのだと思う。6次産業化や特産品開発により作った商品を販路拡大していくという取組をさらに支援していただきたい。</p>												

II. 地域経済の活性化に資する取り組み

達成度			達成・未達成の要因
成果指標	目標	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会議は達成度 50%であるが、事務担当者レベルでは毎月開催が出来ている。行政・商工支援団体間での情報共有は従来に比べ進んでいる。
A級グルメフェアー出店社数	10	8	
まちづくり委員会開催数	3	3	
イベント開催数	4	4	
情報交換会議の開催	2	1	
コミュニティサービスにいみ参加企業数	26	25	
			主な今後の予定・改善点
			<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き市内外から集客を図るイベントの活用をする。 ・参加企業の支援を継続して行っていく。
有識者会議における今後の見直し等に関する意見			
<p>プレミアム商品券事業について、H28年度当初では新見市の予算計上はないが、新見商工会議所と阿哲商工会で協議されて、必要ということであれば新見市に要望していただくのがいいと思う。</p>			